

鹿追焼の民藝

鹿追窯

Foik Art

鹿窯追

１９７２　鹿追美蔓坂改良工事中に青粘土を発見
１９７５　鹿追窯開窯
１９７７　初代陶工が76代金重柿右衛門氏により薫陶を受ける
　　以来、緋襷、桟切などの技法を取り入れた焼物を生産する
２００４　初代が一線から退き、2代目が継承する
　　以降、釉薬と土の研究に勤しみ民藝品を制作する

鹿追窯HP





干支置き物　　300円～



緋襷酒器セット　　8,000円
徳利　径９cm×高さ14cm
酒盃　径6cm×高さ4cm



緋襷酒器セット　　8,000円
徳利　径９cm×高さ14cm
酒盃　径6cm×高さ4cm



炭化花瓶　　径11cm×高さ19cm
10,000円

鹿追焼

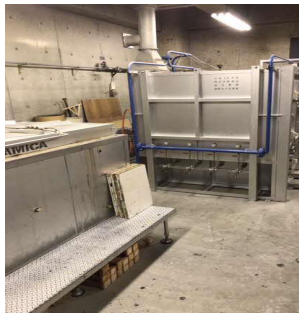
鹿追焼は、鹿追美蔓地区から出土する良質な粘土を原料としています。この鹿追焼が郷土が誇る工芸品として、多くの人々に愛され育てられることを心から願うものであります。

鹿追窯



「鹿追焼」

鹿追焼は、昭和 47 年に鹿追美蔓坂改良工事中に出土した粘土が陶土に適している事がきっかけとなり、昭和 50 年に鹿追窯が開窯しました。以来、鹿追町の郷土工芸として人々に愛され育てられてきました。



4、「炎」

【高性能な炉と多種の焼成】

小型電気炉、大型電気炉、ガス炉を操作し、【酸化炎、中性炎、還元炎、炭化炎】などの焼成方法と積み重ねた経験と知識で、様々な種類の作品を焼き上げ消費者のニーズに応えます。



1、「土」

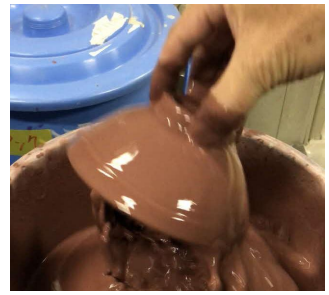
【郷土の土】

鹿追美蔓地区より出土する粘土は、３種類あります。地表の荒い褐色土、中層部に黄色土、深層部に白色土があり微粒子で可塑性が高く火に強いことが特徴です。

鹿追焼は、これら３種類の粘土を主原料とし制作しています。又この粘土は、よく焼き締まるため釉薬を施さずに焼いても水を通しずらいことから炻器土とも呼ばれます。



鹿追窯
〒081-0222
河東郡鹿追町東町３丁目
町民ホール内陶芸工作館
TEL0156-66-3738
【営業時間】
8 時 30 分～17 時 15 分
休日：土･日･祝日



2、「釉」 くすり

【オリジナルの伝統色】

受け継がれた伝統色は、原料を吟味して調合した鹿追窯のオリジナルです。灰釉、織部釉などが代表する釉薬ですが、白マット釉、天目釉、飴釉などの釉薬も数多く作られています。



3、「技」

【受け継がれた技法と熟練した成形技術】

鹿追焼の源流は岡山県の備前焼にあり、釉薬を施さず稲藁を作品に巻き付けて焼く緋襷が代表的な技法となっています。また、木炭を使った黒焼締めなど特殊な焼き方での作品も作っています。



織部酒盃　　径6,5cm×高さ4,5cm
1,000円



海鼠丼　　直径17,5cm×高さ9cm
3,000円



織部輪花皿
7,000円



織部湯呑　　径6,5cm×高さ8,5cm
1,200円



織部豆皿　　1,200円



織部角皿　　縦13,517,5cm×横23,5cm
3,000円



織部飯茶碗　　径12cm×高さ5,5cm
1,200円



織部片口　　織部そば猪口
1,400円　　1,200円



練込マグカップ　径8cm×高さ9cm
2,500円



白釉カップ　径7,5cm×高さ7,5cm
1,500円



白釉丼　径17,5cm×8,5高さ
3,000円



白釉ボール鉢　径21cm×5,5高さ
3,500円



白釉スープカップ　径12cm×高さ6cm
3,500円



白釉マット楕円皿

中	縦13,5cm×横20cm	1,600円
大	縦15,5cm×横23cm	2,000円
大大	縦18cm×横27cm	2,400円

ふるさと納税



志野風飯茶碗　径13,5cm×高さ6cm

1,200円



切立湯呑　径7cm×高さ8,5cm

1,500円



灰釉丼　径16,5cm×高さ8cm

2,000円



鉄釉丼　径19,5cm×高さ9,5cm

3,000円



灰釉皿　径19,5cm×高さ14cm

3,000円



灰釉鉢　径19cm×高さ７cm

2,000円



灰釉醤油皿　1,500円

灰釉小付け　1,200円



灰釉花器　径12,5cm×高さ21cm

10,000円